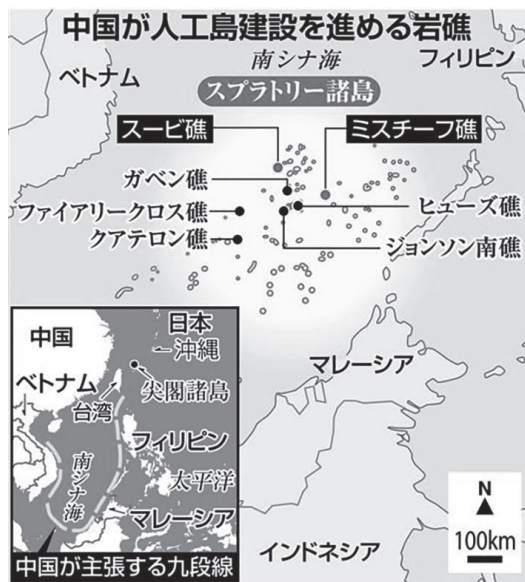


# イージス駆逐艦「ラッセン」 中国の「埋め立て人工島」12カイリ内を航行



■安倍首相「米と連携」 中国「強烈な抗議」

オバマ米政権は10月27日、海軍横須賀基地のイージス駆逐艦「ラッセン」を、南シナ海・スプラトリー諸島、中国が埋め立てている島の12カイリ（約22キロ）内を航行させた。中国の張業遂筆頭外務次官はアメリカのボーカス駐中国大使を呼び出して「強烈な抗議」を行うなど強く反発し南シナ海の緊張は高まっている、らしい。

埋め立て人工島の12カイリ内へのイージス駆逐艦「ラッセン」派遣はアメリカ軍の「航行の自由作戦」と名付けられ「ラッセン」は滑走路の建設が進む南シナ海「スービ礁」と「ミスチーフ礁」の近くを約133キロ航行した。

アメリカ国防当局者は「中国艦船は「ラッセン」のはるか遠く後方を追尾してきたが「ベトナム」や「日本」の海上保安庁の船に体当たりしたような好戦的な気配はさらさらなく「安全な距離を保っていた」という。

「航行の自由作戦」には哨戒機P8Aが同行したがアメリカ海軍は今後も一層頻繁に哨戒活動を行う。当然ながら、この海域にはアメリカの原子力潜水艦もひそかに待機していたはず。アメリカ軍の「作戦」とはそういうものだ・・・。

中国が「浅瀬にある暗礁を海底から吸い上げる砂で埋め立てる人工島」の造成は違法。潮の干満に関わらず海面に常に出ているものでなければ島とは言えず、潮が引けば水没してしまう岩礁は暗礁なので、その上にいくら砂を盛っても島ではない。ズルイ中国はいつものようにヤクザな手口。

親中派のオバマ大統領の任期中に暗礁を埋め立てて人工島を造り、実行支配する事で、南シナ海を全部中国のもの、私物化しようとしている。戦闘機が発着できる3000メートル級の滑走路を3つ。7箇所の島を造成している。

近づく漁船・船舶は追い払い、体当たりして沈没させ、軍事力で威嚇して近づくのを断念させよう、とする。

しかも、埋め立てた人工島は中国のものだから12カイリは中国の許可なく入る事は禁ずる、と言い出した。

南シナ海は日本のエネルギーを搬入する大事なルート、生命線ですらある。

南シナ海はその沿岸国すべてが自由貿易で使用している公海であり、世界の貿易の40%がこの公海を使っているわけで南シナ海は決して中国の私物ではない。

しかし、アメリカはなぜ今頃になって動き出したのか？

昨年、中国が違法な埋め立て、人工島建設を行っていたことは、偵察衛星で見ていて知っていたはずだ。

また、アメリカの有識者のほとんどが中国の野望に気付いている。

アメリカで元中国の軍幹部が書いた『中国のYUME』がベストセラーになっているというがその本の内容は「アジアはすべて中国のものにする」というものだという。アメリカの『中国対策室』の話では国務省トップが、その著者を食事に招待したがその招待の目的は「著者の『頭の中身』を知りたかった」からであるという。

つまり、まさか『正気』ではないでしょうね、という意味だ。

アメリカの「航行の自由作戦」は、人工島と周辺海域を中国の「領土、領海」とは認めないという米国の姿勢を示威行動で示し、強く牽制（けんせい）するもの。

これに先立ち国防総省のデービス報道部長は記者会見で「海洋権益を過度に主張する中国に対抗する」と強調し、スプラトリー諸島周辺海域での米軍の活動について、中国へ通告する義務はないとの認識を示した。イージス駆逐艦「ラッセン」は5月末から南シナ海に展開していたという。

国防総省は5月ごろから12カイリ内での航行をオバマ大統領に強く進言。優柔不断なオバマ大統領はようやく重い腰を上げ、中国を除く関係当事国や日本などに派遣方針を伝達した。

中国外務省の陸慷報道官は定例記者会見で「中国政府の許可を得ずに中国の領海に不法に進入したことに対し、強い不満と断固たる反対を表明する」との談話を発表した。

陸報道官は「米国側の行為は中国の主権と安全を脅かす」と非難し、「中国は法に基づき、

米軍艦に対して監視、追跡と警告を行った」と説明した。中国国防省によると警告行動は中国の軍艦2隻が行った。

陸報道官はまた、「周辺海域と空域で厳密な監視を続け、必要に応じて全ての措置を取る」と語り、対抗措置をとる構えを示した。

安倍晋三首相は、記者団に対し、南シナ海の人工島周辺での米イージス駆逐艦の航行について「国際法にのっとった行動であると理解している」と述べた。その上で「大規模な埋め立てなどで現状変更し、緊張を高めることは国際社会共通の懸念だ。日本としては自由で平和な海を守るため、米国や国際社会と連携していく」と述べた。



中国による南シナ海の埋め立て工事



イージス駆逐艦「ラッセン」